

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320144

研究課題名（和文） ロシア帝国支配地域における民族知識人形成と大学網の発展に関する研究

研究課題名（英文） The Formation of National Intellectuals and the Development of University Network in the Regions under the Rule of Russian Empire

研究代表者

橋本 伸也（HASHIMOTO NOBUYA）

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：30212137

研究成果の概要（和文）：

ロシア帝国支配下にあった諸民族地域（非ロシア人住民が主として居住する地域）における民族知識人形成と大学網の発展に関して、フィンランド大公国、沿バルト諸県（エストニア、ラトヴィア）、西部諸県（ポーランド・リトアニア）、ウクライナ、カフカス、ヴォルガ川沿岸地域のタタール人地域の事例に即して解明するとともに、首都サンクト・ペテルブルグの高等教育機関における非ロシア人教授・学生の活動を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The formation of national intellectuals and the development of university network in the regions under the rule of Russian Empire, where non-Russian national/ethnic groups composed the majority, were analyzed on the cases of the grand duchy of Finland (Finns and Swedes), Baltic provinces (Estonians and Latvians), western provinces (Poles and Lithuanians), Caucasia (Georgians and others), and Volga-Ural region (Tatars). Besides it, activities of non-Russian professors and students of higher schools in Saint-Petersburg were discussed on the ground of archival materials.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総計	11,900,000	3,570,000	15,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：ロシア帝国、民族知識人、大学、ヴォルガ・タタール、エストニア、ラトヴィア、フィンランド、カフカス

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の橋本は、すでに研究開始時までに身分・階級、民族、ジェンダーによって分断されたロシア帝国の大学を含む教育構造についての研究を実施して単著の刊行準備を

進めていたが、それを前提として、帝国内諸地域の民族知識人形成と大学網の発展についての研究を着意した。その背景には、近年の歴史学において格段の進展を見たロシア帝国論の成果及び、やはり社会文化史的な方法に

よって刷新されたヨーロッパ大学史の展開があった。このうち、東中欧・ロシアのナショナリズムの構築における大学及び知識人の役割については、チェコの社会学者・歴史学者であるミロスラフ・フロフによる一連の著作に加えて、R.D. Anderson, *European Universities from the Enlightenment to 1914* (Oxford University Press, 2004)が重要な示唆を与えていたが、橋本は同書の邦訳に監訳者として取り組んでいた(2012年刊行予定)。

## 2. 研究の目的

本研究は、帝制期ロシアにおける帝国内諸地域の民族知識人形成と大学網の発展との関連を問うことを目的とする。その際に大学等で教育・研究される学知、大学人の結社活動、地域社会における大学人の位置づけなどが、諸民族の「覚醒」(民族的アイデンティティの形成)にどのように寄与したのかが重要な論点である。

対象地域は、ポーランド統治期以来カトリック的教育の整備の進んだリトアニア、正教・カトリック・プロテスタントが競合しつつ独自の教育体制を構築したウクライナ、中世以来バルト・ドイツ人の支配下にあった沿バルト地域、スウェーデン統治からロシア帝国支配下に編入されたフィンランド、ムスリムと正教徒と共存・競合のもとにあったヴォルガ・ウラル地域やクリミア地域、やはりイスラームとキリスト教諸派とがモザイク状に混在したカフカス地域など、ロシア帝国の広大さと多様性に配慮した諸地域とする。

こうした検討を通じて、諸民族集団の集合体としてのロシア帝国の構造解明と、とりわけ諸地域における民族形成と知の関連に関する研究の進展に寄与することを狙いとする。

## 3. 研究の方法

研究目的達成のために、各地域・民族集団に即して配置した専門研究者(外国人共同研究者を含む)による文献史料・文書館史料の調査と、これらを使用した個別研究を推進するとともに、その成果を集約してロシア帝国の全体像を提示することを試みる。

そのために、①各地域の文書館・図書館等での史料および先行研究の収集、②相互比較のための理論的検討と個別事例の共有・一般化のための研究会、③海外共同研究者の参加を得た現地および日本でのカンファレンスの開催とともに、各研究者の国

内外での学会発表および雑誌投稿等による研究成果の公表とあわせて、英文および邦文による図書を刊行する。

また、帝國的統治と民族知識人形成との関係について比較史的観点を確保するために、隣接するハプスブルク帝国やオスマン帝国の動向にも留意するとともに、ロシア帝国解体後、ソヴィエト期の民族問題についても参照軸として設定する。

## 4. 研究成果

研究代表者・研究分担者・研究協力者はそれぞれの担当する国・地域等において民族知識人および大学史についての現地研究者との研究交流や図書館・文書館等での史料調査を頻繁に行ってきた。訪問国は、ロシア(モスクワ、サンクトペテルブルグ、カザン等)、フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニア、ベラルーシ、ウクライナ、グルジア、ポーランドの多岐におよぶ。

また、研究期間の3年間に合計6回の研究会(内1回はヘルシンキで開催した国際カンファレンス)を開催し、研究成果の報告を行った。それぞれの報告内容は以下の通りである

第1回研究会(2009年7月5日)  
研究目的・分担等の確認と研究計画の検討。

第2回研究会(2010年3月26日)  
小森宏美「ロシア帝国下でのエストニア人知識人の形成」  
青島陽子「19世紀中葉「大改革」期ロシアにおける一般教育制度改革—教育専門職者の登場と教養層の拡大—」  
磯貝真澄「ヴォルガ・ウラル地域のムスリム知識人と教育—19世紀後半—20世紀初頭—」

第3回研究会(2010年8月6日)  
梶さやか「19世紀前半におけるリトアニア概念のあり方」  
石野裕子「ロシア帝国下におけるフィンランド人知識人の形成と民族運動」  
立石洋子「社会主義の祖国と諸民族の歴史—スターリン期ソ連における民族史描写—」

第4回研究会(国際カンファレンス、ヘルシンキ、2011年3月14日)

HASHIMOTO Nobuya, Introductory Overview  
KAJI Sayaka, Intellectuals of Vilno University and Lithuania in the Early 19th Century  
ZHUKOVSKAYA Tatyana, Ethnic Groups among Professors and Student Body of the

Imperial Saint-Petersburg University in the Early 19th Century

NAGANAWA Norihiro, Who are Tatar Intellectuals? : In the Context of Islamic World, Russian Empire and Local Community

LUUKKANEN Tarja-Liisa, The New Intelligentsia: The University of Helsinki and the 19th-Century Religious Nationalism in Finland

第5回研究会 (2011年8月6日・7日)

福嶋千穂「近世ルテニアの正教会と啓蒙・教育」

伊藤順二「ロシアとトルコの狭間で—グルジア識字普及協会の活動」

米岡大輔「ハプスブルク帝国治下ボスニアのムスリム知識人—機関紙『オグレダロ (Ogledalo)』の言説をめぐって」

Elena Astafieva「正教会とローマ・カトリック—19世紀後半ロシアにおける正教神学ディスコースの形成」

第6回研究会(2011年12月26日)

巽由樹子「近代ロシア絵入り雑誌の研究—商業出版と専制、インテリゲンツィヤ—」

磯貝真澄「ヴォルガ・ウラル地域テュルク系ムスリム知識人の「啓蒙」と女性」

研究成果取りまとめ (出版) にむけた打合せ

以上の多岐にわたる研究報告を通じて、広大なロシア帝国のかなり多くの地域・民族の実態に即して民族知識人の形成とその活動、あるいは大学をはじめとした教育機関とその教員が民族運動に際して果たした役割が個別的に克明に明らかにされたのに加えて、比較対照軸の設定とともに、それらを総合する観点が提示された。

とりわけ第4回のヘルシンキにおける国際カンファレンスは、19世紀のフィンランドにおける民族知識人形成にとって重要な役割を果たしたフィンランド文学協会で開催し、同教会会長の参加も得ながら、全体像の提示とあわせて、ロシア・フィンランド・日本の研究者が研究報告を行った。その成果は後掲の英文プロシーディングス *The Formation of National Intellectuals and the Development of a University Network in the Regions under the Rule of Russian Empire* として印刷・刊行するとともに、ネット上で公開して国際的な発信に努めた。

また、第6回研究会では、フランスの社会科学高等研究院から研究者を招聘して特別講演を行った。研究分担者・研究協力者は国際学会・国際カンファレンスにおける研究発表や外国雑誌における論文発表を行ってきた。

以上のように、国際的な学術発信と交流を

精力的に行ってきたことは、本研究課題の成果として特筆すべきことである。

また、日本語での研究成果の公開としては、後掲の諸論考の発表に加えて、論集『知の働きと民族の造型—ロシア帝国における民族知識人と大学—』(仮題、昭和堂、2013年刊行予定)を刊行する。これは日本人研究者10名に加えて外国人共同研究者4名の寄稿を得て、ロシア帝国各地の民族知識人の形成過程や彼らの活動をロシアにおける大学網の発展と関連づけて論じるもので、帝国における知と民族との関係を包括的に論じた、国際的にも画期的な論集となるであろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

1. 橋本伸也「第一次世界大戦期ロシア帝国の大学と学生」『関西学院史学』第39号、2012年、39-68頁、査読無。

2. Norihiro Naganawa, The Hajj Making Geopolitics, Empire, and Local Politics: A View from the Volga-Ural Region at the Turn of the Nineteenth and Twentieth Centuries, Alexandre Papas, Thomas Welsford, and Thierry Zarcone (eds.), *Central Asian Pilgrims: Hajj Routes and Pious Visits between Central Asia and the Hijaz*, Berlin: Klaus Schwarz Verlag, 2012, pp.168-198, 査読無。

3. Sayaka Kaji, Intellectuals in Vilnius and the Early Nineteenth-Century Concept of Lithuania: The Society of Scoundrels (Towarzystwo Szubrawco'w) and the Local Society, *Lithuanian Historical Studies*, vol.16, 2012, in printing, 査読有。

4. Norihiro Naganawa, Holidays in Kazan: The Public Sphere and the Politics of Religious Authority among Tatars in 1914, *Slavic Review*, vol.71-1, 2012, pp25-48, 査読有。

5. 磯貝真澄「19世紀後半ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域のマドラサ教育」『西南アジア研究』第76号、2012、印刷中、査読有。

6. 石野裕子「『大フィンランド』思想の変遷—三人の研究者によるカレワラ研究と『近親民族』思想の分析を通して—」『国際政治』第165号、2011、91-115頁、査読有。

7. 橋本伸也「啓蒙と専制—ロシアにおける大学の社会文化史からの展開—」『ロシア史研究』第88号、2011年、21-31頁、査読無。

8. 伊藤順二「カフカスの「高貴な野蛮人」」『歴史と地理』第644号、2011、57-61頁、査読無。

9. 福嶋千穂「近世ポーランド・リトアニア共和国におけるルテニア：教会合同問題にみる諸階層」『スラヴ研究』第58号、2011、197-227頁、査読有。

10. Masumi Isogai, О работе Ризаэддина бин Фахреддина в Оренбургском магометанском духовном собрании (1891-1906гг.), *Фахретдиновские чтения: Инновационные ресурсы мусульманского образования и культуры*, vol.2, 2011, 100-104, 査読無。

11. 小森宏美「「マイノリティ」と国民国家—エストニアの歴史的経験からの一考察」、『マイノリティという視角』関西大学マイノリティ研究センター中間報告書、2011、255-279頁、査読無。

12. 橋本伸也「ロシア帝国の形成・発展と西欧的学知の受容」『日本18世紀学会年報』第25号、2010年、14-17頁、査読無。

13. 小森宏美「民族性原理はなぜ採用されるのか—エストニアの少数民族文化自治法—」『リージョナリズムの歴史制度論的比較』CIAS ディスカッションペーパー、第17号、2010年、22-30頁、査読無。

14. 石野裕子「ロシア帝国統治期におけるフィンランド人知識人の形成と民族意識—「近親民族」意識と領域認識との関係に注目して—」『IICS Monograph Series』津田塾大学国際関係研究所、第17号、2010、1-26頁、査読無。

15. 小森宏美「書き換えを待つヨーロッパの歴史：EU、エストニア、市民の記憶」、森原隆編『ヨーロッパエリート支配と政治文化』成文堂、2010年、3-24頁、査読無。

16. 梶さやか「ヴィルノ大学と民衆言語—19世紀初頭ロシア領旧ポーランド＝リトアニアにおける社会の一断面—」『歴史学研究』第873号、2010年、14-24頁、査読有。

17. 福嶋千穂「「ハジャチ合意(1658-59年)」にみるルテニア国家の創出」『史林』第93巻第5号、2010年、31-64頁、査読有。

18. 長縄宣博「帝政ロシア末期のワクフ—ヴォルガ・ウラル地域と西シベリアを中心に—」『イスラム世界』第27号、2009年、1-27頁、査読有。

[学会発表] (計 17 件)

1. Norihiro Naganawa, Russia's Muslim Mediators in Arabia, 1890s-1930s: Some Thoughts on a Research Agenda, Muslim Identities and Imperial Spaces: Networks, Mobility, and the Geopolitics of Empire and Nation (1600-2011), 2011.4.7., The Center for Russian, East European, and Eurasian Studies, Stanford University.

2. 石野裕子 Epic Poetry Kalevala Studies and Finnish Nation Building: From the viewpoint of international Relations, Nationalism Seminar, 2011年3月15日, University of Helsinki, Finland.

3. 長縄宣博, The War on Pan-Islamism in the Multi-Confessional Setting of Russia's Volga-Urals Region, 1905-1917, IAS 3rd International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies, 2010年12月18日京都国際会議場。

4. 長縄宣博, A Mirror of Imperialism? Muslim Mediators for the Russian Empire and USSR in Arabia, 1890s-1930s, The 42nd Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, 2010年11月19日, Westin Bonaventure, Los Angeles, USA.

5. 橋本伸也「啓蒙と専制—ロシアにおける大学の社会文化史からの展開—」、ロシア史研究会(招待講演)、2010年10月17日、立教大学。

6. 長縄宣博, An Embryo of Civil Society? Philanthropy and War among the Muslims in the Volga-Urals Region, 国際中東欧研究学会(ICCEES)第8回世界大会, 2010年7月27日, Stockholm City Conference Centre, Sweden.

7. 長縄宣博, Политика благонадежности: борьба с панисламизмом и ее последствия в многоконфессиональном Волго-уральском регионе, 1905-1917, Исповеди в зеркале: межконфессиональные отношения в центре Евразии, на примере Волго-Уральского региона (XVIII-XXI вв.) (招待講演), 2010年5月27日, State University of Linguistics in Nizhnii Novgorod, Russia.

8. 橋本伸也「ロシア帝国の形成・発展と西欧的学知の受容」日本18世紀学会第31回大会(共通論題「帝国」、招待講演)、2009年6月21日、多摩美術大学。

9. 長縄宣博 Muslim Travelers and Empire: Local Politics and World Order in Late Imperial Russia, Junior Scholars Training Workshop “Mobility in Russia and Eurasia” (招待講演)、2009年6月17日、University of Illinois at Urbana-Champaign, USA.

[図書] (計2件)

1. Nobuya Hashimoto (ed.), *The Formation of National Intellectuals and the Development of a University Network in the Regions under the Rule of Russian Empire*, 2011, Kwansai Gakuin University, 103p. [<http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/handle/10236/1649>], 2011

2. 橋本伸也『帝国・身分・学校-帝制期ロシアにおける教育の社会文化史-』名古屋大学出版会、2010年、525頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

橋本伸也 (HASHIMOTO NOBUYA)  
関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号: 30212137

### (2) 研究分担者

長縄宣博 (NAGANAWA NORIHIRO)  
北海道大学・スラブ研究センター・准教授  
研究者番号: 30451389

丹本(石野)裕子 (TANMOTO [ISHINO] YUKO)  
津田塾大学・国際関係研究所・研究員  
研究者番号: 70418903

小森宏美 (KOMORI HIROMI)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授  
研究者番号: 50353454

伊藤 順二 (ITO JUNJI)  
京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号: 80381705

### (3) 外国人共同研究者 (研究協力者)

オクサーナ・ヴァフロメーエヴァ (OKSANA VAKHROMEEVA)  
サンクトペテルブルグ国立大学・歴史学部・准教授 (ロシア)

タチャーナ・ジュコフスカヤ (TATYANA ZHUKOVSKAYA)  
サンクトペテルブルグ国立大学・歴史学部・准教授 (ロシア)

タリャ=リーサ・ルーカネン (TARYA-LIISA LUUKANEN)  
ヘルシンキ大学・講師 (フィンランド)

エレナ・アスターフィエヴァ (ELENA ASTAFIEVA)  
社会科学高等研究院・研究員 (フランス)

### (4) 研究協力者

梶 さやか (KAJI SAYAKA)  
日本学術振興会特別研究員 (関西学院大学)

福嶋 千穂 (FUKUSHIMA CHIHO)  
京都大学・文学部・非常勤講師

巽 由樹子 (TATSUMI YUKIKO)  
日本学術振興会特別研究員 (東京大学)

米岡 大輔 (YONEOKA DAISUKE)  
日本学術振興会特別研究員 (神戸大学)

青島 陽子 (AOSHIMA YOKO)  
愛知大学・文学部・助教

磯貝 真澄 (ISOGAI MASUMI)  
京都市外国語大学・非常勤講師

立石 洋子 (TATEISHI YOKO)  
東京大学・大学院法学政治学研究科・修了

今村 芳 (IMAMURA TSUTOMU)  
早稲田大学・文学部・非常勤講師